

令和2年2月7日 ラディアン（夕方）意見交換会

出席者 14人

1 開会

18:00～

2 挨拶

森教育長

3 説明

- ・永井指導主事 「第1回意見交換会で出された学校配置に関する意見の比較について」
「小中一貫教育のメリット・デメリットについて」

4 意見交換

元町地区住民：現状の問題点は単級です。単級は近隣では秦野、平塚にあり、教育委員会が紹介した京都の大原学院も単級です。素晴らしい発表がありました。なぜ、単級ではいけないかと言うが一つ目です。私は中学校で数学を教えていた。今、小学校の算数を見ている。数学と算数では指導方法が全然違う。実際に中学校の先生が小学校へ行く時に、教材研究の時間が取れるのか？先生方の仕事が増えるのではと心配している。

指導主事：今、研究中で乗り入れ指導を実際に行っている。中学校の教員が小学校で教えれば、小学校の担任の先生がやるよりも、得るものが多くなるのかと言ったら一概にそうとは言えない。一回入っただけでは、担任の先生が子ども達の特性を良く知ったうえで指導する方が、良いというのは分かっている。ただ、二宮町は英語外国語活動を、乗り入れの重点化の教科としている。3年目に入り中学校の教員が小学校で教えたり、小学校の教員が教えるにあたって授業作りに関わっている。結果、小学校教員の英語の授業は本当に変わった。小学校の教員が持っていた英語を教える不安が大きく減った。また、中学校の教員が小学校で何を狙っているか、どんな風な授業をしているのかという理解が深まった。そのことで、中学校での授業を組み立て直すことも見られた。ほんの一例で授業をお互いが知り合うだとか、小中が協力しようだとか、二宮に適したやり方があると思う。全てで教材研究を追いつくのは時間が掛かるだろうと感じている。た

だ、効果的な乗り入れというのはあるのかなと感じる。

教育長： 単級でも良いのではという意見と質問ですが、自分の知っている範囲では、秦野市の上小学校(小規模特認校)、伊勢原市の大山小学校、平塚市の土屋小学校である。少人数でも6年間仲良く過ごせて、よい人間関係が続けば良いが、大きな事故があった場合に児童は家族と一緒にになって引越しをしなければならない状況に陥ってしまった事例もある。

人間関係が固定化してしまうと、そこでのいじめとか上下関係を崩すことができない。複数のクラスであれば崩すことができる。秦野の上小学校は今年から特区申請をして、学区を撤廃して市内全域から子どもたちを集めるようとしている。伊勢原も同じである。やはり子どもたちが少ないという弊害の人間関係や社会性を高めるためにも、少しでも多くの人間関係を作るために子どもたちを集めている。ただ上小学校でも学校として特色を出さなければ子どもたちが集まらない。そこで秦野の場合はまだ細かいことは公表されていないが体育、運動を特色にするのではないかと思う。伊勢原の場合は ICT と外国語教育を特色として、平塚の土屋小はそのようなことはしていないがいろいろな課題がある。教師側のことは、学校は子どもの数やクラスが多くても少なくても、行事は入学式もあれば、修学旅行もあればすべて同じようにある。また、すべての教科に携わらなくてはならない。教員の人手からいうとクラスが多いと例えば授業研究でも一人で行うのではなく同学年で複数で行うことができる。学校規模が違ったとしても校務分掌はすべて同じようにある。そこにかかわる教員の数も限られている。少しでも教員の人数が多ければ分担することができる。単級とは話がずれるが中学校の教員の力も導入して組織を精選していけば、PTA 活動も小学校と中学校を一つにできるし、児童・生徒指導においてもずっと長く子供たちに寄り添って、一人ひとりを見ることができる。もちろん単級でも特化して特色を出して素晴らしい学校を作ることにはできる。いずれ二宮町もすべてそのようになることは必ず来る。そのためにも今から準備して、そうなったときのために、人手を揃えとか、子どもたちを地域で見とるとか、子どもたちが一人でも多く人とふれあう場を設けることが、この小中一貫を取り入れることで、しかも施設一体型になればよいと思う。一歩先んじて布石を打つことができるのではないかという思いで提案している。

百合が丘住民： 一番大事にしてほしいと思っているのは、通学距離です。

1年生と6年生では通学にかかる時間が全く違う。1年生を基準に考えて

いただいているのでありがたいと思いますが、30分以上1年生が一人で帰るような通勤路というのは、現実的に相当厳しい。行き帰りにそれだけの時間がかかるということは保護者や地域の見守りの方も相当な労力を強いられるので、通学に関しては優先順位を高くして考えていただきたい。

施設一体型にした場合の小学生と中学生が在校したときの人数の割合がみえてこない。どの程度、そこに共存するのか知りたい。

部長：通学距離と地域とのつながりは大切というご意見をたくさんいただいている。通学距離から考えると、小学校区に1つ学校があるのが教育的には一番いいのかと思う。それで案を見ると、F案が通学距離の負担が少ないと考えている。人数割合は施設一体型のときは、小学生2、中学生1の2：1を想定している。一学年2クラスとして小学生が12クラス、中学生6クラスと考えている。

越地地区住民：そこまでして小中一貫校が良いのかというのが根底にある。中学校の先生の不安の声は、私も思う。はたして、一貫校にしてデメリットを超える程のメリットがあるのか。デメリットに対してああすればいい、こうすればいいと言われていたが、本当にそれで解決できるのか。中1ギャップの緩和とありますが、高学年になることで得られる利点もある。そこが通りすぎてしまうのはデメリットと思う。一度6年生で立ち止まって年上感を味わって、また中1で年下感も味わう行程は、社会に出るうえでの大事な情緒のひとつの過程だと思う。後、これは人に聞いた話ですが、小中一貫をしている学校は合同で実施する学校行事の中で、運動会などはすごく間延びする。中学校はすごい勢いある運動会があると思うが、今でさえ1年生から6年生まで長いと思う。中学生なりの運動会はできないだろうと感じた。細かいことを上げたらきりが無いが、一番心配な事は校庭で、中学校は部活動が学校生活の中で大事な割合になってくる。それぞれの校庭の使い方を、視察したりして把握しているのか一つの疑問です。デメリットをカバーできるほどのメリットは、そんなにあるのかということが根底にある。

教育長：二宮の学校ごとの規模の違いが大きい。SNSが発達して、子ども達は人と触れ合わなくても何でも出来てしまう時代になってしまっている。でも、本当に社会に出た時に必要な力、自分の考え、相手の考えをしっかりと受け止め、それを調整する力が必要。もちろん今までもやりたい事をやって来られたから、何も変えなくとも思われるのも確かにそうだと

思います。でも、このままで本当にいいのか。一つの例であるが登校班で班長さんが自分の班員の名前をちゃんと言えない。理由は登校途中だから、普段遊んでいないからである。そのくらい人間関係が希薄になっている。少しでも多くの子ども達が異年齢で年齢を超えたふれあえる機会がこれからは大事だと思う。コミュニティ・スクールを導入した地域の中で生きていかなければいけない。二宮で育って過ごしていくうえでも、何かあった時には地域の方と顔が繋がっていく、よく二宮ではお囃子の会などで異年齢の声が非常に盛んですが、だんだん薄くなってきて参加者が少なくなっているとか、子供会という組織があってもだんだん参加する人が少なくなっていると話を聞きく。つまり、隣近所にいる子ども達がふれあっていない。町場で遊ばない、登校班でも公園でも遊ばない、学校でしか人間関係をつくる場所がない。

学校と言っても同じクラスの子としか遊ばない、クラスの人数も先細りしている。色々工夫して小学校では、6年生から1年生までの縦割りの場を意図的に作っている。リーダーシップをとるのは6年生では限られている。中学校、高校とコンタクトも取ろうとしているがなかなか異年齢と子ども達がふれあう場面が少ない。大きい人と話したり、小さい人と話したり、世話をする機会がない。限られた年代としか生活していないと、これからの社会に生き抜く力をつける為には、コミュニティとか地域の中で異年齢で少しでも多くの経験をする。話をする。相手を知る。少しでもこのような機会を増やす事が出来るのではないかという事で、小中一貫校を二宮の特色として提案している。

越地地区住民：異年齢の交流はすごく大事である。小学校1年生から6年生の交流でも密になっていないのに、中学生までの交流は密になるのは難しいと思う。

異年齢の交流はすごく大事だと思うが、異年齢＝小中一貫ではないと思う。今、6年生までで交流がきちんと出来なくて、更に中学生までになったら、もっと他人事になってしまうのではないかと思う。それが大事だと思うなら縦割りがうまくいっていないならばそれを分析するべきです。1年生から6年生の方がもっと密になれるはず。1年生から中3年生が密になるのは難しい。1年生から6年生が出来ないのに1年生から中3年生ではもっと出来ないと思う。そのあたりはどうでしょうか。

教育委員：少し観点が違うかもかもしれないが、小学校の教員を38年やってきた。いまだに関わっている。色んな話の中で教育委員の立場になって、

さて、小中一貫に自分は賛成か、反対か。自分がいままで出来なかったのは何かというと、小学校と中学校との壁を乗り越える連携だとかが上手くいかなかった。基本的には小中一貫の理念は正しいし、問題点は様々で、工夫で乗り越えていって何とか小中一貫の方向にいききたいというのが、今の私の考えです。

百合が丘住民： 一主婦と子どもを持つ母としての意見ですが、一番気にしているのは単級で、子どもの話を聞いていると小3で31人のうち女子が10人。10人で6年間ずっと一緒に、既にグループが固定化されている。小2では、1クラス21人しかなくて、そこで縦割り班があったとしても・・・。二宮小学校では1学年4～5クラスあると聞くと、同じ二宮町なのにすごく差があると思う。運動会では、二宮小学校はグラウンドはきつきつ、一色小学校は広々で種目もあつという間に終わってしまう。そこはすごくギャップがあるなと思う。単級でもいいのであれば特区、上小のように市内の誰でも規定にそって来ていいよという事で、単級を選ぶのであればいいのかなと思う。ただ、通学時間や友だちと群れて遊ぶことを考えると小学校は地域にあるのがいいと思う。案にはないが、中学校を1つにして、活発な部活動ができたらいと思う。特色ある単級でないのであれば、学区の編成で単級を解消させてもらえるとありがたい。

梅沢地区住民： 何が良いのか本当に分からない。具体的な案が出てきて、その中で小学校は近くがいいと思う。F案は、通学距離はいいが中学校が3つになる。中学校は1つでいいと思う。高校はクラスが多いので、そこもギャップを感じてしまうのではないかなと思う。中学生は自転車を通うことが出来ると思う。

中学校は大人数で行事や部活動に満喫してほしいと思う。施設一体型となると考え直さなければならないと思う。中学校1つとなれば、連携がとりやすいのではないかな。

部長： 梅沢は山西ですが、たとえば、F案で学区の見直しがあつて、梅沢地区が、西中に通うイメージがあるがどうですか。梅沢も東、中、西と地区的にはなっていますが、二宮小学校が二宮中学校へ行くイメージですから、二中と西中と一色小学校になった場合、梅沢地域は西中に通うというのはどうですか。

百合が丘住民・小学生の子ども： 新しく宅地が出来た所が、学区が山西でど

ちらの学校に行っても変わらなかったのに、転校しました。

課長：教育委員の意見で、学区再編を先にしたらいいのではないかというのがあった。単級を回避させるということだと、一色小学校に中里地区が入ると複数学級になる。そうすると今度は山西小学校が単級化してしまう。7月の西中での意見交換会の時に、地域の方から梅沢は元々山西地域だから、山西小学校区に梅沢が入れば山西も複数学級になる。二宮小学校は2、3学級あるのでどこも単級にならない。中里の方何人か聞くと一色でいいよという方が割と多かった。距離的にも一色の方が近、嫌だと言う人はあまり聞かなかった。梅沢の方はかなりいやだという方が多いようである。

部長：西友の上に宅地分譲ができた所に、一色の団地から引越した児童がいた。一色小に通うのも山西小に通うのも同じ通学時間なのに、学区としては山西なのだから泣く泣く転校した児童がいました。トンネルを抜けて通うのが不安だというのがあります。30分以内であれば通学時間は納得してもらえるでしょうか。

教育長：中学校の話にもどして申し訳ないのですが、部活動については運営が非常に厳しくて、部活動を町全体で広域的に行う方が良いのではないかと。部活動ごとの特色を持った学校を作るというのも案としてどうか。サッカーをしたければサッカーのある学校、野球をしたければ野球のある学校というのも良いのではないかと。学区は決まっているので、希望している部活動がない学区に住む生徒は部活動を理由に指定地域外通学変更ができるようにする。また、二宮だけでは部活動が成り立たないときに大磯と連携しながらやらないと部活動が成立しないものがポツポツあります。そういうことを考えると部活動は特色をつけて学校ごとに作ることも考えられる。前の意見交換会でも出たが、工夫はたくさん必要であるが部活動はある程度絞って地域の中でスポーツクラブ等と連携して、地域に帰していければいいと思う。

小中一貫校であれば小学生が中学生の部活動に関わることもできるし、先生方でも小学校の教員が部活動の面倒を見ることもできる。

梅沢地区住民：話を聞いて部活動についても考えていくと感さるんだと感じた。できればそういうのを、子ども達の実際の声聞いて欲しいと思う。私が二宮中学校で満足しているのに、中学校が1校になったらどう思うと質問したら「えっ」と言っています。なんで西中と一緒にいるのと、今

の自分たちは人数が多いから、わりと恵まれた環境にある。2クラスです
っといくと、ちょっと違ってくると思います。子ども達の声聞いて下さ
い。

部長：今準備をしているところです。

梅沢地区住民：子どもたちの声を聞いて欲しい。地元の学校に行ってほしい
と思っているので、地域で中学生までは育てほしい。私は小中学校は地
元の公立派で、地元の学校に行きたくて欲しいと強く思っている。私立に流れ
ていくのは悲しいので地域で育てたい。

富士見が丘住民：先程の中1ギャップについてです。教育委員が話されたこ
との中で教員が生徒を知るという事は物凄く大事な事だと感じる。小中
一貫校で先程の教育長の話の中で社会に出た時に順応出来る子どもが育
つ事や部活動というスポーツに対する事も行っていくというお話ですが、
保護者の方々はいろいろと不安を抱えている中で、前回の小中一貫校の
説明も含めて、小中一貫教育にして二宮町の中からこんな子どもを排出
したいとか、排出するんだとか熱意のあるものを聞きたい。教育長から声
を聞かせていただいて、先程も話しにあったように教員が子ども達を大
事に育てていこうという意識や一体感がないと、ただ単に教員の負担や
嫌だという雰囲気では効果的ではないと思う。やはり教育のトップとし
てどのような子ども達を育てていただけるのか、そのような思いを聞か
せていただきたいと思う。

教育長：今、実は私には思いがありまして、教育長になる時にも、人の気持
ちが分かる思いやりを持った子ども達に育てたいという気持ちがありま
した。地域の特性としてコミュニティ・スクールが始まり、地域の方が子
ども達に声をかける。ところが今の社会では子ども達に声を掛けると不審
者扱いと言われてしまうような社会になってしまった。二宮町は長寿の里
という事で子どもからお年寄りまで皆が仲良く育てて過ごすという町だ
と私は思っております。地域からは子ども達を大切にすることが伝わって
くる。先生達や教育委員会は子ども達に出来る事は小中の教育しかない。
小中の中でどれだけ子ども達を特化できて力が発揮できるのか。やはり 9
年間を見取って子どもの生き立ちを応援してあげたい。子ども達の一人一
人の特性を活かす為にも、この子は小学校の時はこうで、中学校になっ
たらこんな夢を持っているよ、中学の先生が、今この子はこうだけど、小学

校のときどんな夢を持っていたのかなど、そういった育ちの連続性を教員も共有し、子ども達もずっと心に残し育っていくことが大事であると思う。そのために個別支援計画という個別教育計画みたいなものをちゃんと立てて、一人ひとりのプログラムみたいなものを本当は特化してつくるべきだと思う。今支援教育の中ではそのようなシートみたいなものを必ずつくらなければいけないことになっている。支援級には属さないボーダーの子にもそのようなシートをつくって、子ども達には必ず光るものを持っている。その所を見つけて、それを伸ばすためにも、その先生がその学年だけで見ているのではだめである。それを次の学年に引き継いで、それをさらに引き継いで、それを9年間ずっと続けていけば、その子達が自分の得意なところを花開かせることができると思う。ところが学年が変わり、学校が変わり、中学校が小学校と違ったりすると接続しなかったりする。それをなめらかな接続にすることだと思う。それで子ども達一人ひとりを9年間見取っていく。今、文科省からはキャリアパスポートをつくることの指示がきている。義務教育だけでなく高校を含めて12年間で見取っていくものである。生徒指導要録といって子どもの記録を書いて保存する公的書類がある。それと同等の扱いをして、子ども達の一人ひとりの見取りをしなさいという指示がきている。このキャリアパスポートみたいなもので小中一貫を行うことで、ずっと引き続いて丁寧に見取っていくことができる。それを子ども達に私たちが、二宮の教員が9年間で、この子はどういう特性があるから、それを開かせればすばらしい能力が付くと思う。苦手なところはいい。得意なところを特化して伸ばす。得意なところが見つからなければ、見つけてあげられるような、一人ひとりを見取ることができる教員を育て、子ども達に夢をいだかせさせる素地をつくるために、9年間寄り添って、なめらかに先生達が付き合っていけるような教育をしたい。インクルーシブと言われているが、大勢の中で子ども達が育つということはとても大事で、先ほど述べたボーダーの子どもも支援級にいなかったとしても、子ども達の中でみんな切磋琢磨して育つには、やはり、6年間でもいいが、少しでも多くの人と、異年齢の子ども達が「そんなことしちゃだめだよ」と言ってあげたり、「そこはこうしてあげたほうがいいよ」とか言い合える環境が少しでもあれば、子ども達が将来社会に出てもマナーのこととか、相手への思いやりのこととか育むことができます。二宮の特色として、それを小中一貫として、二宮の支援教育を含めて特化した特色のある教育ができるようにしたい。小学校から中学校へ、次の学年に向けて引き継ぎをしっかりとる事でいじめ等もなくしていけたらと思います。

教育委員：教員生活の中で何冊か心に残った本がある。本当に若い頃読んだ本で、地域の活動に積極的に参加した子はだいたい地域に残る。あまり参加していない子が残らない。根っこがあるかないかです。なるほどと思った。先般の全国学力学習状況調査の中で算数・国語・理科等ではなくて生活の様子を問う質問で、二宮町の小学生は県平均、全国平均より地域への参加率は高い。しかし中学生は県平均、全国平均よりも参加率が低い傾向にあった。結局コミュニティ・スクールというのを始めているが、地域と共に学校と一緒にあって子どもを育ていくという流れの中で、二宮に愛情を持つ子どもが地域の方々と活動する中で育っていける可能性があるのではないかと考える。そういう意味でもっと地域とのコミュニケーションを培っていきたい。地域の人々の力を借りながら、子どもを育てたいという夢を持ちながら考えている。

元町地区住民：1人1人の子どもを9年間連続して良い面で長所を活かす事は良い事だと思うが、逆の考え方でいくと子ども達は環境によって変わってくるのではないかなと思う。そうすると小学校までは例えば伸び悩んでいた子どもが、中学校で環境が変わる事によって「勉強や部活を頑張ろう」という考えを持っている子どもがほとんどだと思う。もちろん中1ギャップの子も一部はいると思うが、ほとんどの子ども達は環境が変わる事によって頑張ろうという気持ちになり中学校に進学すると思う。そうなる则一体型については、同じ環境の中で9年間過ごすというのは例えば小学校2年生・3年生でいじめにあった場合、それを中学校3年生までずっといじめられた時には逃げ場がなくなる。それならば小学校と中学校を分離し中学校へ入学したら頑張ろうという子ども達の環境を作った方が良くはないかなと思う。

百合が丘地区住民：小中一貫教育は基本的に賛成ですが、最初から小中一貫校を義務教育学校で作るのと途中で変えるのはかなり違うと思います。一番気になる点は先生方の対応で、これを実現するには先程ワーキンググループを作って研修も重ねていると話しにありましたが、先生方が余裕を持って小中一貫校を実行するというモチベーションを持てるような環境を作れるように、研修するなり視察にいくなりどんどんして欲しい。そうしないと結局子ども達も戸惑う事が多くなると思う。先生方のケアを是非お願いしたい、それから皆が今出来る事が沢山あると思います。小学校同士の交流や小学校・中学校の交流はないと思うのでそこはやり始めたら良い

のではないか。折角コミュニティ・スクールもあるので、そうやって違う小学校・中学校の子ども達と触れ合う機会が当たり前になってくると小中一貫校というのも当たり前の延長線上になると思う。もしかしたらやらなくてもいいかもしれない。今出来る事をまずやってみてから考えるのも良いのではないか。何故なら一色小学校に二宮小学校の学童が来るという話になっているが、それだけでもかなりのところが紛糾します。違う学校の子どもを受け入れるというアレルギーのある保護者の方もいると思います。それって入って来れば子ども同士は和むと思うが、保護者も嫌がっている訳ではないが、やはり色々な問題がそれだけでも生じると思う。もし小中一貫校を急に何年度からやるという段階を考えていると思いますが、本当に今出来る事は積極的に率先してやる姿勢がなければ意識を変える事は難しいと思う。是非お願いしたい。

部長：本日は長い時間ありがとうございました。ざっくばらんに色々な意見を聞く事が出来て非常に参考になった。頂戴したご意見を参考に見直しをしていきたいと思う。やはり思いは同じだと思う。子ども達により良い環境で教育をしていきたい。そこをぶれないようにしたい。研究ももっともっとやっていかなければと思う。出来る事からやっていきたいと思う。是非ご協力をお願いしたい。